

「がれき処理には十分な装備を」厚労省

朝

東日本大震災の被災地で進むがれきの撤去作業に、厚生労働省がヘルメットや防じんマスクなどの着用を呼びかけている。大型連休にはボランティアの被災地入りが増える見通しで、職員が現地入りして危険な作業がないか見て回る。

がれきの処理では、くぎを踏み抜いたり、粉じんを吸い込んだりする危険がともなう。ゴーグルや肌が出ない長袖、底の厚い安全靴などの着用が望ましい。厚労省の担当者は「Tシャツやスニーカーといった格好は危険」。がれきには石綿（アスベスト）が含まれる恐れもあり、水をまいて湿らせ、割らずに処理する方がよいという。有害物質が発生しかねないため、焼却しないよう呼びかけている。